

「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」

事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【学校名】 京都府立 綾部 高等学校

【全校児童・生徒数】 895 名

【テーマ】 I II III IV V

【実践研究タイトル】

- ・特別支援学校の生徒とのスポーツ交流による、思いやりの心の育成
- ・オリンピックの講演による競技力向上への刺激

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

スポーツ総合専攻 1年（男25名・女16名、合計41名）、2年（男27名・女13名、合計40名）
3年（男20名・女19名、合計39名）

本校 1年生（男102名・女139名、合計241名）、2年生（男104名・女136名、合計240名）
水泳部、硬式野球・ソフトボール部

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情（○）	卓越（ ）	尊重（○）
	勇気（ ）	決断力（ ）	
	平等（○）	鼓舞（ ）	

- ・近隣の特別支援学校とのスポーツによる交流を通じて、障がい者への理解と共生社会を形成するための思いやりの心を育てる。
- ・オリンピックとコーチの話を聞くことにより、スポーツへの関心を高めると共に、さらなる競技力向上を目指すきっかけとする。

【種類】

- ・各教科（体育（ ））
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・部活動（水泳等（ ））
- ・その他（（ ））

【実践内容等】

(実践内容)

- ・中丹支援学校とのスポーツ交流
：水泳部との水泳での交流

：硬式野球部・ソフトボール部男女との
ソフトボールでの交流

- ・オリンピックとコーチによる講演会

・「オリ・パラだより」の発行（8回）

(與那嶺恵理選手と武井きょうすけコーチ)

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・中丹支援学校とのスポーツ交流は時期などを設定し、今後も継続できるようにする。
- ・外国からの訪問時に部活動での交流を積極的に行う。

(成果)

生徒の感想文より（ソフトボール交流）

私は支援学校との交流会が初めてで、どんな感じが全く予想ができず少し不安でした。でもいざ練習が始まると私たち以上に大きな声でボールを呼び、打席に立つ仲間へ声援を送る選手がほとんどで最初の不安も忘れるくらい驚いたことが印象に残っています。練習後半には支援学校の選手のヘッドスライディングなどガッツ溢れるプレーを見て、私たちも負けていられないと、良い刺激をもらいました。また、挨拶や練習への取り組み方など当たり前のことをしっかりする支援学校の選手の姿から私自身も学ぶことが多くありました。

この交流で、同じ時間を共有し、一つのことに向かって全員が全力で楽しむことができるスポーツの素晴らしさを改めて感じました。また、今回のこの経験は、相手に教えることを通して相手と同じ目線に立つことや相手への思いやりについて考えるきっかけになりました。

生徒の感想文より（講演会）

今日は與那嶺恵理選手と武井きょうすけコーチに来ていただいて、楽しく内容の濃い話をさせていただきました。一番強く心に残ったのは、「最低1年間の努力と改善」という言葉です。これからの自分の人生を変えるには、最低1年間は努力を続ける覚悟があるということです。1年間もその努力を続けられる人は中々いないと思います。僕もきつとぎつと思います。だから、その1年間を過ごせた與那嶺選手は本当に強いと思いました。

武井コーチは「與那嶺選手は自分を信じる力があるし、コーチの言うことも200%信じてくれる力がある」と言っていました。自分の練習とかコーチの言ってくれるメニューを信じて練習することは聞いているだけでは簡単そうに聞こえるかもしれないけれど、いざ自分がするとなると本当にできるのか分からないなと思いました。

最後に、與那嶺選手に「今まで会ってきた人の中で一番刺激的だった人は誰ですか？」という質問をしました。與那嶺選手は「隣にいる武井コーチです」と答えてくれました。縁があって二人は出会えて、與那嶺選手は人生が変わったと聞いて、人と人との縁ってすごいなと思いました。自分ももしかしたらこれから自分の人生を変えてくれる人に出会えるかもしれないし、もし違っても、自分とは違う考え方や見方が自分の刺激になるし、だから僕はもっと人と人との縁を大切にしていきたいと思いました。これから出会う人の個性にもまれて、成長していけたらいいと思います。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

- ・推進校の決定が遅いと、講演会の講師が中々見つからないので早い時期から選定しておく必要がある。
- ・特別支援学校との交流は、予め年間行事計画を交換し、準備期間をしっかりと取っていく。